

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和3年3月18日(2021.3.18)

【公開番号】特開2019-154803(P2019-154803A)

【公開日】令和1年9月19日(2019.9.19)

【年通号数】公開・登録公報2019-038

【出願番号】特願2018-45629(P2018-45629)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 G

A 6 3 F 5/04 5 1 2 Z

A 6 3 F 5/04 5 1 2 D

【手続補正書】

【提出日】令和3年1月22日(2021.1.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

遊技区間として、通常区間と有利区間とを有し、

通常区間では、ストップスイッチの有利な操作態様を報知せず、

有利区間では、ストップスイッチの有利な操作態様を報知する場合を有し、

リプレイに対応する図柄組合せが停止表示しなかった遊技において、通常区間から有利区間への移行契機を満たした場合には、有利区間であることを示す試験信号を出力するための処理を実行してから所定期間が経過した後に、遊技価値が投入可能であることを示す試験信号を出力するための処理を実行可能とし、

2バイトの値を記憶可能な所定の記憶領域を有し、

タイム割込み処理によって、所定の記憶領域に記憶されている値を更新する更新処理を実行可能とし、

更新処理では、所定の記憶領域に記憶されている値が「0」であるか否かを判断することなく、所定の記憶領域に記憶されている値から「1」を減算し、

所定の記憶領域に「N(N-1)」が記憶されている状況において更新処理が実行されたときは、所定の記憶領域に記憶されている値は「N-1」であり、

所定の記憶領域に「0」が記憶されている状況において更新処理が実行されたときは、所定の記憶領域に記憶されている値は「0」である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、試験信号を出力可能な遊技機に関するものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

従来の遊技機において、B B 中、R B 中、リプレイゲーム中をそれぞれ示すB B 中信号、R B ゲーム中信号、リプレイゲーム中信号により、その時点の遊技状態を特定可能とすることが知られている（たとえば、特許文献1参照）。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

しかし、従来の技術において、有利区間中であるか否かを試験機において識別することができなかった。

本発明が解決しようとする課題は、有利区間中であるか否かを試験機に対して正確に知らせることである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、以下の解決手段によって上述の課題を解決する。なお、かっこ書きで、対応する実施形態の構成を示す。

本発明は、

遊技区間として、通常区間と有利区間とを有し、

通常区間では、ストップスイッチ(42)の有利な操作態様を報知せず、

有利区間では、ストップスイッチの有利な操作態様を報知する場合を有し、

リプレイに対応する図柄組合せが停止表示しなかった遊技において、通常区間から有利区間への移行契機を満たした場合には、有利区間であることを示す試験信号を出力するための処理（図303のステップS2996、及び図304のステップS3002の処理）を実行してから所定期間（図295のステップS2862及びS2863の処理に要する期間）が経過した後に、遊技価値（メダル）が投入可能であることを示す試験信号を出力するための処理（図303のステップS2993及びS2994、並びに図304のステップS3002の処理）を実行可能とし、

2バイトの値を記憶可能な所定の記憶領域（図285中、アドレス「F018」及び「F019」の「最小遊技時間」、アドレス「F01A」及び「F01B」の「遊技待機表示時間」）を有し、

タイマ割込み処理（図294(b)の割込み処理）によって、所定の記憶領域に記憶されている値を更新する更新処理（図294(b)の割込み処理中、ステップS2952のタイマ計測）を実行可能とし、

更新処理では、所定の記憶領域に記憶されている値が「0」であるか否かを判断することなく、所定の記憶領域に記憶されている値から「1」を減算し、

所定の記憶領域に「N(N-1)」が記憶されている状況において更新処理が実行されたときは、所定の記憶領域に記憶されている値は「N-1」であり、

所定の記憶領域に「0」が記憶されている状況において更新処理が実行されたときは、所定の記憶領域に記憶されている値は「0」である

ことを特徴とする。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明によれば、有利区間中であるか否かを試験機に対して正確に知らせることができる。